

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.085

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお●'56年生まれ。新党日本代表、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選、1期務める。【公式ブログ】 www.nippon-dream.com/



“クールヘッド・ウォームハート”な戦略に基づく「支援」こそ国民益

今週の逸品



カチュンバルサラダ 525円

飯田橋の地で10年余、パキスタン出身のモハメド・トゥッフェル氏のスルターンは東京都に数多存在するインド料理店の中でも僕と妻が最もお気に入り。薄皮煎餅のスパイシーなパーバルが突き出しに供される。29種類のカレー、何れも7種類のナン&ライス、晚餐セットは1260円〜。午餐時はナン&ライスがお替わり自由。調理人が交代し、味付けは再び隆盛。インドワインに加えてフランス・イタリア・チリも取り揃える。

【スルターン】東京都千代田区飯田橋2-9-7 東西館ビル1F ☎03-3263-7631 営11:00~23:00 無休、土・日、祝日のみ15:00~17:00休 休 <http://www.sultan.co.jp/>

Illustration by Hajime Anzai

インドへの円借款を増大させるべき、と80年代半ばにシンポジウムで当時、弱冠30歳の僕が述べると、日本の外務省で要職を務めた年長の人物は終了後に囁きました。あの国は難しい、と。

から、と続けました。じゃあ、際限なきODAを求めろ中国は愛い奴だと手放して礼賛ですか？ 若気の至りで直截に言い返すや忽ち、渋い表情になりました。

日本からインドへの投資が本格化するのには、既にルフトハンザを始めとする欧州系の航空会社がインドに予約部門を集約し、米国籍のIT企業も西海岸との12時間の時差を活かして事務処理を移管し終え、BRICS（ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ）なる惹句が登場して以降の話。

へと移っても、引き続き妻のW嬢と通う「食卓」です。1億8千万人と世界第6位の人口を擁するパキスタンも、インドと並んで英連邦加盟国。独立後もカナダ・オーストラリア・シンガポール・南アフリカ等50数カ国を英連邦に留め置く宗主たるイギリスは、ソフトパワー且つハードパワーの「武器」として「英語」を駆使しているのです。同様にアメリカも「ドル」と「米語」、更には米国的消費社会を。



日本の「武器」はモノ作り。が、無謀にも海なし国ヨルダンへPL法に抵触の原発輸出を行った轍を踏む勿れ。富国強兵ならぬ富国裕民の「クールヘッド・ウォームハート」な戦略に基づく「支援」こそ国民益。インドへの支援は中国への牽制球。他方でパキスタンへの支援もインドへの牽制球。外交の要諦です。